



スペインからの国際交流員

彦根市では、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」のホストタウンとして、スペインハンドボール代表チームやセゴビア市との交流を進めていくため、2019年8月からスペイン出身の国際交流員を招致しました。

市民講座を開催

彦根市がスペインと交流していることを知っていただくため、アドリアンさんが講師となり、「スペイン語講座」や「スペイン語フリートーキング」、「スペイン文化講座」を開催しました。



各種 SNS を使った情報発信



Twitter、Instagram を活用して、スペインの情報や国際交流員から見た日本、彦根市について発信しました。YouTube では、スペイン語に親しんでいただくため、スペイン語での動画を作成して公開しました。

ぜひご覧ください▶



オリジナル LINE スタンプを作成

ホストタウンの取り組みとして、「彦根市×スペイン応援スタンプ」というスペインハンドボール代表と彦根にゆかりのある武将の井伊直政と石田三成をイメージしたキャラクターを使用したオリジナル LINE スタンプを制作し、販売しました。



▶詳しくはこちら



～国際交流員からのメッセージ～

アルホナ ゴメス アドリアンさん
(任期：令和元年8月から3年間)



「スペインを身近に感じてもらえるように」

¡Hola! (こんにちは!) 2019年の8月に彦根市に到着してから、あっという間に約3年が経ちました。この期間の中では勤務しながら数えきれないほどの貴重な経験を重ねてきました。

地理的には距離がありますが、皆さんにスペインを身近に感じていただけるよう、全力を尽くしました。

また、当時の課長から「〇〇言うてもたさかいに…」という関西弁を初めて聞き、私はこれまで勉強してきた日本語とまるで違う言語のようだったと思ったので、今でも不思議と記憶に残っています。

今後も日本とスペインの友好交流がさらに活発化することを期待しています。

始めてみませんか？多文化共生への第一歩

約 35 人に 1 人は外国人住民

令和4年5月末現在、彦根市には 3,084 人の外国人住民がおられます。約 35 人に 1 人が外国人住民であり、さまざまな文化を持つ人が一緒に暮らしています。地域や学校、職場などで、困っている外国人住民がおられたら、声をかけることから始めてみませんか？

やさしい日本語を使ってみよう！

※「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい日本語のことです。1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに、日本語が不慣れな外国人に、素早く的確に情報を伝えることを目的に作られたものです。

<やさしい日本語のポイント>

- ▶全体的にゆっくり話し、言葉ははっきり発音する。
- ▶一文を短く、区切って話す。
- ▶難しい言葉は、簡単な言葉に言い換える。
- ▶外来語(カタカナ語)はできるだけ使わない。
- ▶あいまいな表現はせずに、具体的に伝える。
- ▶方言はできるだけ使わず、標準語で話す。



多文化共生のためのさまざまな取り組み

募集しています！

多文化共生サポーター



▶詳しくはこちら

外国人住民がより暮らしやすくなるようサポートするボランティアです。

子ども多文化クラブへの参加や外国語版広報ひこねの配布のお手伝いのほか、言語によっては翻訳や通訳をお願いすることもあります。登録いただいた方には、サポーター通信(右の写真)をお送りしています。



受けてみませんか？

国際理解教育プログラム出前講座

多文化共生とは何か？いろいろな国の文化の人が共に生きていることをワークショップ形式で学べるプログラムを用意しています。

自治会などからの依頼も受け付けていますので、ぜひご利用ください。ホームページから、申請書をダウンロードできます。

※本事業は、彦根市・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町で構成する「湖東定住自立圏」の人材育成の取り組みです。



▶詳しくはこちら